様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　６ 月 ２２ 日現在

機関番号：３４３１２
研究種目：若手研究
研究期間：2018～2021
課題番号：１８Ｋ１３０３３

研究課題名（和文）中年期の無配偶女性が抱える高齢期に向けた貧困リスク

研究課題名（英文）Poverty risk for old age in middle-aged unmarried women

研究代表者
大風　薫（OKAZE, Kaoru）

京都ノートルダム女子大学・現代人間学部・准教授

研究者番号：７０７８３３４８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　2,700,000円

研究成果の概要（和文）：中年期の無配偶女性には、そこに至るまでに多様な経歴があり、経歴の違いが保有する経済資源の多寡や生活設計の仕方に相違を生じさせる。貧困リスクに関連する経歴要因として、①親との一貫同居は、金銭管理行動や将来の経済的な見通しに対する自信を抑制してしまう、②転職回数が多くなるほど収入・資産の水準が低く、資産形成の多様性に乏しいことから老後に向けた経済的備えがぜい弱になる、③未婚期間が長期化するとキャリア向上に対する意欲が低下し親のケア役割が就業の意思決定に影響を及ぼすようになる。よって、無配偶女性の貧困リスクについては家族関係や職業経歴の相違などの要因を多面的に検討する必要があると示唆できる。

研究成果の学術的意義や社会的意義
年代別の未婚率や50歳時点未婚率は今後も上昇する傾向があり、日本はもはや皆婚社会ではない。高齢期を無配偶のまま過ごす人びとの貧困率は有配偶者に比べて目立って高いにも関わらず、家族の支援を受けられることが当たり前という社会認識の中で、無配偶者を研究対象とする研究は未だ少ない。しかし、現状の社会保障制度は既婚を前提に構築されており、無配偶者のセーフティネットは脆弱である。よって、人びとの家族形成の実情と見込みを踏まえた制度の見直しや無配偶者のリスク低減策を検討することは、個人と社会の重要課題である。本研究の成果はそのような検討や議論に対する基礎的な情報を提供することに貢献するものである。

研究成果の概要（英文）：Middle-aged single women's life histories affect their poverty risk in old age. Specifically, their relationships with their families and jobs influence their economic resources and life plans. My several studies have clarified the factors associated with their poverty risk in old age. The results are as follows: (1) long-term living with parents suppresses middle-aged single women’s money management behavior and confidence in their future financial prospects; (2) the more frequently a single woman changes jobs, the lower her income and asset level; (3) as low-income single women do not have various means for asset formation, they will have weak financial preparation for retirement; and (4) the lower a woman’s motivation for career advancement, the more the parental caregiving role influences her decision to continue regular employment. Thus, researchers should examine the various risk factors for poverty among never-married women.

研究分野：生活経営学、生活経済学、家族社会学

キーワード：未婚者　無配偶者　中年期　生活設計　資産形成　キャリア形成　能力開発　世代間関係

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

現代日本では晩婚化・未婚化が進み、50 歳時点の未婚者(生涯未婚者)が増加している。2015 年度の国勢調査によれば、日本人男性の生涯未婚率は 23.4%、女性で 14.1%と 1990 年以降大きく上昇する傾向にある。この拡大傾向は今後も続き、2030 年時点の予想は男性 28.0%、女性 18.5%で、未婚が珍しくなくなった世代が高齢期に入ると 65 歳以上の未婚率が大幅に上昇すると見込まれる(国立社会保障・人口問題研究所 2018)。

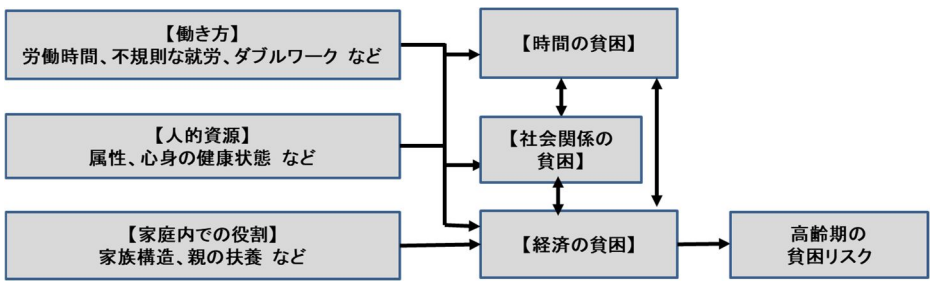
同じく離別経験率についても 2015 年では 10%を超えて上昇傾向にあり、中高年期を無配偶で過ごす女性は増加している。非婚女性は老後にむけた経済的備えが脆弱になりやすく(山田 2014)、高齢世代の未婚女性の相対的貧困率は 50%を超え、有配偶女性に比べて著しく高い(橘木・浦川 2006; 阿部 2010)。ライフコース理論によれば、人生の有利／不利は加齢とともに蓄積される。つまり、高齢期の生活水準は、中年期の生活や働き方に依存する(Vartanian & McNamara 2002)ことから、高年世代の無配偶女性の貧困理由を検討するためには、中年期の生活状況を詳細に検討する必要がある。

貧困については、近年、経済面のみならず、複合的な観点から検討する必要性が指摘され(石井・浦川 2014)、所得の貧困と時間の貧困が同時的に発生したり、所得と時間のトレードオフが生じていたりすることが実証されている(石井・浦川 2014; 赤石 2014)。時間は、身体的・精神的健康を保つための不可欠な要素であることから、無配偶女性の貧困率の高さを検討するにあたり、経済面、時間面、健康面などの多元的な観点を導入する必要がある。

日本の未婚者研究は、成人後も親との同居を継続し自立を先送りする成人未婚子の有様を「パラサイト・シングル」と命名し(山田 1999)、成人後の未婚子の経済状態に親の資源が大きく影響するという新たな知見をもたらした(宮本・岩上・山田 1997)。だがこれ以降は、配偶者のいないライフコースを送る女性たちが中年期以降に経済的困難に直面しやすいことを指摘するものの、そのような困難がなぜどのように生じるのかという詳細な実証研究はほとんど行われていない。以上を踏まえ、本研究は、「配偶者がいないことで、どのような生活状況が、どのように高齢期の未婚女性の貧困率を高めるのか」という問いを追究していく。

２．研究の目的

本研究の目的は、中年期の無配偶女性の生活実態とその経済面・時間面の困難に与える影響を把握することで、彼女らが潜在的に抱える高齢期の経済的貧困リスクの規定要因を見出すことである。具体的には、(1)就労や家庭生活、家族関係の実態を把握し、(2)これらの経済面や時間面の困難との関係を明らかにし、彼女らの貧困リスクを追究する。従属変数とする高齢期の貧困リスクについては、年金の受給見込み、遺産相続の見込み、予想される保有資産、就業継続、キャリア形成、介護役割、生活設計・資産形成などを検討する。本研究の研究枠組みは以下の通りである。



３．研究の方法

研究目的を達成するために、4 年間の研究期間において、①先行研究のレビュー、②対象となる中年期の無配偶女性へのインタビュー調査、③質問紙の作成と Web による量的調査、④量的調査の分析というステップのもとに研究を実施した。インタビュー調査は首都圏在住 12 名の無配偶女性(未婚継続者、離別者、死別者、交際相手あり)に対して 2 時間程度の半構造化面接を行った。Web 調査は 30 歳～59 歳までの婚姻経験のない女性 1000 名(全国)を対象に行った。

４．研究成果

(1)シングル介護者のストレスと就業

シングル女性は親の介護者になりやすく、親のケア役割によって就業を中断し貧困に陥る可能性が高くなるという先行研究をもとにストレスプロセスを検討した。その結果、①介護費用の負担が多くなると家計認識は悪化し精神的なストレスが増す、②要介護者の介護要請ニーズが高いほど精神的なストレスが増す、③同居介護は別居介護に比べて家計認識を良好にするが、精神的なストレスが増すことを明らかにした(大風 2019)。また、介護役割と現職の就業継続見込みとの関係を検討した結果、職場における仕事の担当が一人である場合、仕事と介護サービス利用との調整に困難を抱えているほど、現在の仕事を継続する見込みが低下することも明らかと

なった(大風 2020)。以上の結果は、介護を一手に引き受けざるを得ないシングルにおいて、ケア役割によってもたらされる経済面・身体面・時間面の負担はシングル自身の生活マネジメントに負の影響をもたらす可能性を示唆するものと考えられる。

(2)生活設計に対する肯定感・金銭管理行動

未婚女性の約半数が生活設計を行っていないという調査結果を踏まえ、金銭管理行動および生活設計に対する肯定感の規定要因を検討した結果、①金銭管理行動については、現在就業していること、教育年数が長いほど、金融経済の学習経験が多いほど自らの金銭管理を定期的に行っているが、親と同居している人は行わない傾向がある、②現状の家計認識については、親と同居している人、健康状態がよいほど、収入が多いほど、金銭管理を定期的に行っているほど、金融経済の学習経験が豊富な人ほど、親の経済力が高いほど家計認識が良好になる、③生活設計に対する肯定感については、収入が多いほど、金融経済の学習経験が豊富なほど肯定感が高いことを明らかにした(大風 2018)。以上のことから、シングル女性の生活設計については、居住面の自立、経済状態の把握、金融・経済知識による相違があり、貧困リスク回避のためには、職業との継続的なつながりの維持、健康資本の維持、怪我・病気時のセーフティネットの構築、親からの自立による生活設計力の向上が重要であることが示唆できた(大風 2021a)。

(3)就業と生活設計

40・50 代未婚女性の就業状況と収入・資産との関係について検討した結果、①現職の従業上の地位は初職の従業上の地位と関係し、シングル女性は初職非正規の場合に正規職への移行が困難になる、②現職やキャリアの中心が非正規である場合には収入・資産ともに低い、③職場の制度を利用したり自発的に能力開発を行っていると収入や資産は多くなる、④学歴が高く、仕事収入が多いこと、父親・母親からの経済支援を期待できることは資産形成手段を多様化させることを明らかにし、それらを踏まえて、自律的で持続的な生活設計や能力開発を行える社会的支援の重要性を指摘した(大風 2021b)。

(4)就業継続と定位家族との関係性・メンタルヘルス

未婚女性の就業やキャリア形成に対する意向について得られた知見は以下の通りである。まず、大風(2021c)では、①未婚女性は有配偶女性に比べて流動的な働き方を望む傾向にあるが、年齢の上昇に伴い現職への長期就業意向が高まる、②定位家族（親）に対する経済面・ケア面の支援役割を担うことも、現職を継続したい意向を上昇させる、③メンタルヘルスが良好な場合は現職を継続したい意向が高くなることを明らかにし、未婚者の就業選択やキャリア形成において、年齢にともなう考え方の変化が生じること、家族責任を担うことは働き方に対する考え方に影響を及ぼし、その役割が重い場合には就業面の制約になる可能性があること、就業継続においては身体的な健康よりも精神的な健康の影響が大きいことを指摘した。就業継続を前提とした現在および将来の経済的基盤の確保という面において、長い職業生活の間に生じる未婚者自身および彼女らを取り巻く環境・ネットワークの変化を踏まえた上で、持続的な職業生活の実現のための方策を検討することが必要と考えられる。

(5)キャリアアップ意欲や仕事に対するコミットメント

大風(2022a)では、長期勤続を望む未婚者はアクティブな労働者として働き続けるのだろうかという問いをたて、昇進希望の規定要因を検討した。その結果、①結婚意向をもつ未婚者は昇進希望を持ちやすく、結婚するかどうか曖昧であると昇進希望も曖昧になる、②未婚女性は有配偶女性よりも昇進希望が低く、経済的な問題がなければ仕事をしたくないと考える傾向にある、③未婚女性の中でも昇進希望を持つのは、勤務先の規模が大きく、すでに役職についている場合や自分の仕事能力に自信をもっていることであることを明らかにした。以上の結果を見ると、結婚するかどうか、昇進するかどうかの意思決定を明確にできずに不透明なライフコースを歩み、仕事へ十分なコミットメントもできないままに働いている未婚女性の姿が見て取れる。よって、未婚者に抱かれがちな、家族責任が少なく、制約のない働き方やキャリアアップができる存在というステレオタイプな見方を離れ、未婚女性内にある多様性や格差についてより詳細に検討する必要があることを示唆した。

(6)生きがいとメンタルヘルス

現役世代(40 代・50 代)の生きがいの保有状況と格差の検討において(大風 2022b)、①低収入層は仕事も家族も生きがいと感じにくい傾向があり、収入水準と婚姻状況の関係を見たところ低収入層には未婚者が多く、②未婚者は既婚者に比べて生きがいを持っていない確率が高いこと、③未婚者はひとりで気ままに過ごすことを生きがいと感じやすく、④メンタルヘルスの水準も有配偶者に比べて低いが、生きがいをもつことで未婚者のメンタルヘルスも向上することを明らかにした。本分析対象の現役世代には就職氷河期世代が含まれ、この世代は、本来働くことの中で当然得られてきた経済力や人生経験を十分に得られないままに中年期を迎えており、生きがいを感じにくい構造下にあることを示唆した。

同じく中高年男女の孤独感を検討した分析においても、無配偶者の孤独感は有配偶者よりも

高く、未婚女性はお金を借りたり、介護を必要とするときに頼りにできる人がいないとする割合も高いことから(大風　2021d)、配偶者を持たないライフコースを歩む人びとのウェルビーイングに関する研究を充実させる必要があるといえよう。

(7)未婚者研究のレビュー

大風(2022c)において、最新(2020 年)の国勢調査の結果を示した上で、現代日本における未婚化・晩婚化の実態および研究の現状と課題を示した。具体的には以下の通りである。①日本は晩婚化から未婚化社会に入っており、若年男女の交際状況を踏まえると、未婚化は一層進展することが予想される、②社会構造的な変化や個人の意識・価値観の趨勢を注視しながら未婚理由の継続的な解明が必要である、③未婚期間の長期化によって生じる経済問題を詳細に検討し、早期の解決への手がかりを得る必要がある、④未婚者の親密性に関する研究の進展、メンタルヘルスなどの関りが検討課題となる。

＜引用文献＞

阿部彩(2010)「日本の貧困の動向と社会経済階層による健康格差の状況」内閣府『生活困難を抱える男女に関する検討会報告書－就業構造基本調査・国民生活基礎調査 特別集計』(2015 年 9 月 30 日取得, http://www.gender.go.jp/research/kenkyu/konnan/pdf/seikatsukonnan.pdf).

赤石千衣子(2014)『ひとり親家庭』岩波書店.

石井加代子・浦川邦夫(2014)「生活時間を考慮した貧困分析」『三田商学研究』57（4）：97―121.

国立社会保障・人口問題研究所(2018)「日本の世帯数の将来推計（全国推計）――2015（平成 27）～2040（平成 52）年――」(http://www.ipss.go.jp/pp-ajsetai/j/HPRJ2018/t-page.asp　取得日：2021 年 1 月 12 日).

宮本みち子・岩上真珠・山田昌弘, 1997,　『未婚化社会の親子関係』有斐閣.

大風　薫(2022a)「正社員未婚男女の結婚意向と昇進希望」独立行政法人労働政策・研修機構『労働政策研究報告書　変わる雇用社会とその活力―産業構造と人口構造に対応した働き方の課題―』:144-166.

大風　薫(2022b)「現役世代男女の生きがいとメンタルヘルス―階層、ライフイベント、資産形成に注目して―」『年金研究』No.19:54-83.

大風　薫(2022c)「現代日本における未婚化・晩婚化の実態および研究の現状と課題」『生活環境研究』第 5 号:1-10.

大風　薫(2021a)「中年期シングル女性の生活設計における課題―持続可能な生活に向けて」『生活経営学研究』No.56:18-24.

大風　薫(2021b)「中年期未婚者の就業と生活リスク―キャリア形成・転職・能力開発に注目して」『年金研究』No.15:17-51.

大風　薫(2021c)「未婚男女の就業継続意向―年代・家庭内役割からの検討」独立行政法人労働政策・研修機構『労働政策研究報告書　長期雇用社会のゆくえ―脱工業化と未婚化の帰結―』:63-78.

大風　薫(2021d)「中高年男女の孤独感―配偶関係、孤立に注目して」日本社会学会第４回全国家族調査第２次報告書第３巻『親族サポート・ネットワーク』:95-112.

大風　薫(2020)「配偶関係と就業継続見込み」独立行政法人労働政策・研修機構『労働政策研究報告書　再家族化する介護と仕事の両立―2016 年改正育児・介護休業法とその先の課題』:63-78.

大風　薫(2019)「シングル介護者のストレスプロセス―家計認識への注目と配偶関係の違いによる検討―」『生活経営学研究』No.54:30-39.

大風　薫(2018)「ミドル期シングル女性の生活設計に対する肯定感―家計管理と親の資源からの検討―」第 28 回日本家族社会学会大会報告資料.

橘木俊詔・浦川邦夫（2006）『日本の貧困研究』　東京大学出版会.

Vartanian T. P. & J. M. McNamara, 2002, “ Older Women in Poverty: The Impact of Midlife Factors,” Journal of Marriage and Family, 64, 532-548.

山田昌弘, 1999,『パラサイト・シングルの時代』筑摩書房.

山田昌弘, 2014,『「家族」難民　生涯未婚率 25%社会の衝撃』朝日新聞出版.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計10件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　6件）

１．著者名 大風　薫	４．巻 5
２．論文標題 現代日本における未婚化・晩婚化の実態および研究の現状と課題	５．発行年 2022年
３．雑誌名 生活環境研究	６．最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 大風　薫	４．巻 19
２．論文標題 現役世代男女の生きがいとメンタルヘルス―階層、ライフイベント、資産形成に注目して―	５．発行年 2022年
３．雑誌名 年金研究	６．最初と最後の頁 54-83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20739/nenkinkenkyu.19.0_54	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 大風　薫	４．巻 221
２．論文標題 正社員未婚男女の結婚意向と昇進希望	５．発行年 2022年
３．雑誌名 労働政策研究報告書	６．最初と最後の頁 144-166
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 大風　薫	４．巻 3
２．論文標題 中高年男女の孤独感―配偶関係、孤立に着目して―	５．発行年 2022年
３．雑誌名 第４回全国家族調査第２次報告書	６．最初と最後の頁 95-112
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 大風　薫	4．巻 56
2．論文標題 中年期シングル女性の生活設計における課題―持続可能な生活に向けて―	5．発行年 2021年
3．雑誌名 生活経営学研究	6．最初と最後の頁 18-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 大風　薫	4．巻 210
2．論文標題 未婚男女の就業継続意向―年代・家族内役割からの検討	5．発行年 2021年
3．雑誌名 労働政策研究報告書	6．最初と最後の頁 123-140
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 大風　薫	4．巻 15
2．論文標題 中年未婚者の就業と生活リスク	5．発行年 2021年
3．雑誌名 年金研究	6．最初と最後の頁 17～51
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.20739/nenkinkenkyu.15.0_17	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 大風　薫	4．巻 204
2．論文標題 配偶関係と就業継続見込み	5．発行年 2020年
3．雑誌名 労働政策研究報告書	6．最初と最後の頁 63-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 大風　薫	４．巻 54
２．論文標題 シングル介護者のストレスプロセスモデル―家計認識への着目と配偶関係の違いによる検討―	５．発行年 2019年
３．雑誌名 生活経営学研究	６．最初と最後の頁 30-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計11件（うち招待講演　2件／うち国際学会　4件）

１．発表者名 OKAZE, Kaoru
２．発表標題 Single Caregivers and Stress Process: Focusing on Their Own Household Budgets and Differing Marital Status
３．学会等名 National Council on Family Relations 82th Annual Conference（国際学会）
４．発表年 2020年

１．発表者名 大風　薫
２．発表標題 中年期シングル女性の生活設計における課題―持続可能な生活に向けて―
３．学会等名 生活経営学部会夏期セミナー（招待講演）
４．発表年 2020年

１．発表者名 大風　薫
２．発表標題 シングル介護者のストレスプロセス―家計認識への着目と配偶関係の違いによる検討―
３．学会等名 独立行政法人労働政策研究・研修機構ミニシンポジウム（招待講演）
４．発表年 2019年

１．発表者名 大風　薫
２．発表標題 中高年期シングル女性の親子関係と老後設計―事例を通した検討
３．学会等名 第29回日本家族社会学会大会
４．発表年 2019年

１．発表者名 大風　薫
２．発表標題 ミドル期シングル女性の生活設計に対する肯定感―家計管理と親の資源からの検討―
３．学会等名 第28回日本家族社会学会大会
４．発表年 2018年

〔図書〕　計1件

１．著者名 大風　薫(第4部16.1-16.2)著、日本家政学会生活経営学部会編	４．発行年 2020年
２．出版社 朝倉書店	５．総ページ数 200
３．書名 持続可能社会をつくる生活経営学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関